

2019年6月18日

## ユニバーサル志縁センター 2018年度事業報告(案)

### <はじめに>

当社は社会的経済セクターの形成に向け、設立趣旨にある「ユニバーサルな志縁社会をつくるために、NPO法人、社団法人、社会福祉法人、医療法人等のもとより、労働組合や生協、労協、農協等の協同組合、さらには、いわゆる社会的企業も含めた社会的経済セクターがゆるやかにつながる中間支援団体(全国組織と、これに連動する地域組織)」の役割を担えるよう以下の5つの事業を理事・会員の皆様に参画を求めながら活動を進めてきております。

1. 子ども・若者の自立支援事業
2. 社会的経済セクターの協働事業
3. ユニバーサルな地域社会づくり事業
4. ユニバーサルなはたらく場づくり支援事業
5. 大規模災害時における復興支援活動事業

2018年度は特に以下の2つの方針を基底に置き活動を行ってまいりました。

- ・社会的経済セクターの相互参画の促進
- ・首都圏若者サポートネットワークのスムーズな始動

前者につきましては、各事業において理事、会員団体に随時相談をしながら事業を進めてきており、首都圏若者サポートネットワークについては生協、労働組合、労福協、ワーカーズユープ、NPO各団体の協力のもと活動を推進しており、このほか、NPO埼玉ネットにおける「加藤登紀子命結～ぬちゆい～トーク&ライブ」の実施や厚生労働省社会福祉推進事業へのワーカーズユープからの委員派遣など理事、会員の皆様と連携しながら活動を行ってまいりました。

後者につきましては、中長期計画策定委員会での議論を受け、2016年度実施した「社会的養護下にある子の自立を考える研究会」の提言に基づき2017年度発足した「首都圏若者サポートネットワーク」は1年間の準備期間を経て2018年9月から11月の基金造成のキャンペーンを実施をスタートさせ1300万円を超える寄付を集め基金造成し、10件9団体に助成を行うことができました。また、三菱財団の研究助成を受託し自立援助ホームに入居した就労経験の乏しい若者が生協・ワーカーズユープなどで就労体験する取り組みもスタートしています。

上記2つに付け加えて特筆すべきこととして、より多くの市民、企業団体等からの支援を得ていくために、2017年度の総会より税制優遇などがある公益法人化を進めてきましたが、2019年4月1日より公益社団法人に移行することが決定しました。

2018年度無事事業を終えることができましたのも、皆様のご支援によるものです、改めてこの場を借りて御礼を申し上げます。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

## <当センターの事業内容>

当センターはNPO法人や社会福祉法人、労働組合、生協等の協同組合、社会的企業も含めた社会的経済セクターがゆるやかにつながることにより、子ども・若者の自立支援、社会的経済セクターの協働、ユニバーサルなはたらく場づくり支援、東日本大震災・熊本地震復興活動支援によって、誰にとってもユニバーサルな地域社会づくりに寄与する5つの事業を行っております。

以下に2018年度の事業報告をさせていただきます。

### 1. 社会的経済セクターの協働（地域に根差した政策づくりや具体的参加の促進）

#### 1) NPOの基盤強化（中間支援NPOへのノウハウ・情報の提供）

##### ①人材育成（コミュニティ・オーガナイズ関連のスキルを学ぶ研修等の実施）

・ハーバード大学マーシャルガンツ博士が開発した市民一人一人のリーダーシップを育む「コミュニティ・オーガナイズ・ワークショップ」を協同組合、福祉関係者、NPO等社会活動に取り組むセクターを超えた人材向け研修への協力・ワークショップを実施。

目標：年4回開催 結果：年4回開催

研修ワークショップ開催一覧

2019年

1月6日 NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク、共催：公益財団法人ひろしま子ども夢財団、協力：公益財団法人キリン福祉財団

「子ども食堂はまちのプラットフォーム！になるための研修会」

1月30日 小平市社会福祉協議会 第2回小平市子ども食堂連絡準備会

2月11日 ここぷらっと 第3回ここゼミ#若者支援「小平市内で子ども・若者支援を展開するには？～アイデア出しミーティング！～」

2月22日 NPO法人セカンドリーグ茨城

「コミュニティオーガナイズに学ぶ地域の力を巻き込むリーダーシップ」

・ユニバーサル志縁センター会員・理事団体等のリーダーによる実務者向け講演会の講師派遣。

目標：年2回開催 結果2回開催

2018年

4月12日 「第2回古賀伸明さんの歩みから学び熟議する会」

6月15日 NPO法人グラスルーツ・ジャパン「関係構築をする技術」



##### ②講演・シンポジウムの開催やパネリスト・コメンテーター等としての講師派遣

社会的連帯経済の推進、ユニバーサル就労の推進等を目的として講演活動、ワークショップなどを開催。また、同様の主旨の企画への講師派遣

目標：年4回開催 結果5回

経済産業省「地域キーパーソン会議」

日経ソーシャルビジネスコンテスト アドバイザリーボード

Jリーグ 25周年 未来共創「Jリーグをつかおう！」ワークショップ

ワーカーズコープ「全国よい仕事研究交流集会第4分散会 コメンテーター

一般社団法人ワークアット 報告会コメンテーター

### ③政策提言プラットフォームの運営

本法人が取り組む社会課題（子どもの貧困、震災復興等）の声を集め、パブリックな場で政府と交渉する場の設定を目指す。

・防災リテラシー教育セミナー（別名：協働型災害訓練作戦会議）への参画

「協働型災害訓練」へのステップワークとして、『防災リテラシー教育セミナー講座（別名、協働型災害訓練作戦会議）』を、10. 11. 12月の3回連続講座で開催しました。防災情報サービスチャレンジ・アーバンデータチャレンジイベント（<http://urbandata-challenge.jp/about2018>）として、災害支援の立場から実際に現場とやり取りを行い、研究者・実践者の立場として俯瞰した視点で捉えた「災害の現在（10/30）・過去（11/22）・未来（12/25）」について、防災界の最先端で活躍する方々によるテーマスピーク、物流支援、避難所支援など、参加者の団体、興味ある分野の業務、タイムライン、SOP（標準業務手順書）についてのワークショップを行いました。

◆主催 立正大学地球環境科学部、一般社団法人協働型災害訓練

◆協力 市民キャビネット災害支援部会・スマートICT部会、NPO埼玉ネット、すぎとSOHOクラブ、杉戸町・富岡町・川内村地域間共助推進協議会、

Code for SAITAMA、埼玉県GIS普及推進研究会

●10/30 火 テーマ「現在」防災科学技術研究所・清原研究員

●11/22 木 テーマ「過去」防衛医科大学校病院・秋富准教授

●12/25 火 テーマ「未来」東京大学科学技術研究所・沼田准教授

※時間は何れも 18:30～20:30、会場は浦和コミュニティーセンター（コムナーレ 10階 IT研修室）



・平成30年度 「広域的地域間共助」第6回推進協働型災害訓練 in 杉戸への参画

東日本大震災においては、都市と農村の交流連携や姉妹都市・友好都市連携など、地域活性化や地域振興を目的とした遠隔地との連携・交流の取組がきっかけとなって被災地の支援活動に発展するなど、平時に構築した連携の枠組みが有事の助け合いにおいて効果的に機能を発揮した。本法人理事団体のNPO埼玉ネット、一般社団法人協働型災害訓練は行政間、行政とNPO・市民団体（以下NPO等という）との連携を支援し多数の広域的な地域間の相互支援（共助）活動を進めてきた。このような取組を有効に機能させるために、常日頃から連携する地域同士が「顔の見える関係」づくりを継続的に進めておくとともに、いざという時の手厚い支援に繋げるために、行政関係者のみならず、地域住民や企業、NPO等など幅広い関係者を巻き込み、多様な階層が重層的な連携体制を構築することが必要と考え協働型災害訓練に参画し、参加者の意見を取りまとめ政策提言を行った。







平成31年2月6日  
埼玉新聞朝刊

事業主体：埼玉県杉戸町、福島県富岡町・川内村、一般社団法人協働型災害訓練、NPO 埼玉ネット、  
参加者数：1日目150名、2日目100名（合計のべ250名）

#### ④情報発信の強化

ユニバーサルな志縁社会を推進する先駆的事例をホームページ、メールマガジン、インターネット中継などを活用し、全国の中間支援 NPO を中心に発信し。

メールマガジン：

- ・通常版：月1回発行・臨時号：随時

イベント：

- ・第89回メーデー中央大会：2018年4月28日（土）



動画配信：

- ・埼玉 NPO 放送局

「キミに、つながってテレビ！」

事務局（小山田）が MC 担当



#### ⑤支援ツールの提供による機能強化

専門家派遣や講演会、NPO 支援ツールの販売等を継続して行う。

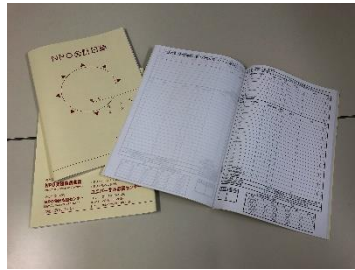
ア. 専門家による起業・運営相談（会計・税務）

目標：5団体 結果：

- ・4月10日 Kaiketsu!伊豆便利堂（会計相談）
- ・5月10日 NPO 法人子どもの未来を紡ぐ会（会計相談）
- ・6月6日 Kaiketsu!伊豆便利堂（会計相談）
- ・11月21日 Kaiketsu!伊豆便利堂（会計相談）

- ・11月21日 特定非営利活動法人さくらぼ（会計相談）
- ・1月22日 NPO法人 子どもアミーゴ西東京（会計相談）
- ・1月22日 有機農業推進協会（税務相談）
- ・1月22日 Kaiketsu!伊豆便利堂（会計相談）
- ・3月22日 NPO法人 燦（会計相談）
- ・3月22日 Kaiketsu!伊豆便利堂（会計相談）

イ. 支援ツールの普及（NPO活動保険、会計ソフトウェア等の販売）  
NPO活動保険（保険代行社、あいおいニッセイ同和損害保険）：14団体  
N-books、ee-会計 紹介（問い合わせ対応）  
チャリティ自販機の設置。（生活科学運営、生活クラブ風の村等）  
会計日誌等ツールの販売（年間販売冊数：667冊）



ウ. NPO支援東京会議の事務局運営  
NPO支援東京会議（会計士、税理士等の専門家ネットワーク）の事務局。

定例セミナー：年6回（予定） 結果：6回  
2018年  
4月10日 NPO支援東京会議4月定例セミナー  
「NPO法人いろいろお悩み相談会」&NPO会計個別相談会



6月20日 NPO支援東京会議6月定例セミナー  
「広島国税不服審判所裁決事例 勉強会」

10月24日 NPO支援東京会議10月定例セミナー  
「実践NPOの会計研修（会計編）」



11月21日 NPO支援東京会議11月定例セミナー  
「実践NPOの会計研修（税務・労務編）」



2019年  
1月22日 NPO支援東京会議1月定例セミナー  
「NPO向け会計ソフト使い方セミナー  
（会計王NPO法人スタイル）」



3月22日 NPO支援東京会議3月定例セミナー  
「NPO向け会計ソフト使い方セミナー（ee-会計 & web会計）」



エ. 西武信金環境・街づくり活動助成金における団体の推薦

・第6回西武街づくり活動助成金

期間：平成31年1月から6月（概ね6ヶ月）

採択した推薦団体名：一般社団法人 CSR プロジェクト

## 2. ユニバーサルな地域社会づくり支援

（誰一人として孤立しない・させない地域社会づくり）

### 1) 志縁をつなぐ文化祭

（アーティストと連携し文化芸術活動を通じて、地域のつながりをつくり、イベント開催して地域のNPO活動を支援）

#### ・命結～ぬちゆい～トーク&ライブの実施

震災直後から精力的に被災地へ支援活動を行ってきた会長・加藤登紀子が被災地での経験をもとに作成した楽曲「命結～ぬちゆい～」。この楽曲をより多くの人たちに聞いてもらうことで地域を元気づけていくことはできないか検討し、「私の未来、私たちの明日、地域コミュニティの次の時代を切り開き、人と人、人と自然の活力を取りもどすためのイベント」として「加藤登紀子 命結～ぬちゆい～トークライブ」を企画。本年度は理事団体のNPO埼玉ネット主催で開催。



開催日： 2019年2月23日

会場： 埼玉県北本市文化センター



### 2) 広がれ、こども食堂の輪！全国ツアーに参画

「こども食堂がその地域でどんな役割の場所になっていけたらいいのか」「地域の人たちがこども食堂にどんなふうに関わっていけるんだろう」こうしたこども食堂の理念やあり方について、講演会やシンポジウムなどを通して考えていくために、実行委員会を立ち上げ全国47都道府県をつなぐツアーを赤い羽根福祉基金の助成を受けて実施。当団体からは実行委員として池本専務を派遣している。本年度で3年目を迎え50か所でツアーを実施。2019年3月9日立教大学で最終報告会を実施。





### 3) 困難を抱えた子どもたちへのコンピューターサイエンス教育の機会を提供

プログラミング体験および、デジタルなものづくりを通じた問題発見・解決を目指すツールとして、世界的に人気のある「Minecraft」を活用し、全ての子どもたちがプログラミング教育や、デジタルなものづくりに触れる事のできる機会創出を行っていくことを考え Minecraft カップ 2019 全国大会を開催する運びになった。この機会を通じ院内学級、特別支援学級、外国をルーツにした子どもたち、貧困家庭の子供たちなどにコンピューターサイエンス教育の機会を提供する。

(プログラミング作品応募期間)

2019年3月10日(日)～8月18日(日)

(授賞式)

2019年9月23日(月) 会場：日本マイクロソフト本社(予定)

(審査員)

鈴木 寛(東京大学教授、慶應義塾大学教授、元文部科学副大臣、前文部科学大臣補佐官)

鶴飼 佑(一般社団法人未踏 未踏ジュニア代表)

大西 一平(プロフェッショナルラグビーコーチ)

神谷 加代(教育ITライター)

高崎 正治(王立英国建築家協会名誉フェロー建築家)

(アドバイザー)

青砥 恭(全国子どもの貧困・教育支援団体協議会 代表幹事)

赤堀 侃司(日本教育情報化振興会会長、ICT CONNECT 21(みらいの学び共創会議)会長)

岡田 武史(元サッカー日本代表監督)

タツナミ シュウイチ(Minecraft 公式プロマイクラフター)

村木 厚子(元厚生労働事務次官)

吉藤 健太郎(株式会社オリィ研究所 代表取締役 CEO)

若宮 正子(最年長プログラマー)

(主催)

Minecraft カップ 2019 全国大会運営委員会

(構成団体：ICT CONNECT 21、日本マイクロソフト、ユニバーサル志縁センター)

運営委員長：鈴木寛

運営委員：赤堀 侃司、平野拓也、池本修悟

監事：岡本正

### 3. ユニバーサルなはたらく場づくり支援

(身体的、精神的、社会的理由によって働きにくさを抱えている人とも一緒に、誰にとっても働きやすい職場づくり)

#### 1) ユニバーサル就労システムの推進に向けたノウハウの提供

各種イベント、シンポジウムにおいてユニバーサル就労について紹介する。

目標：6回

#### 2) ユニバーサル志縁社会を推進するための調査、研究、政策提案

##### ①平成30年度厚生労働省社会福祉推進事業「自立相談支援事業評価実践ガイド普及展開方法検討事業」

平成29年度作成した自立相談支援事業評価ガイドラインの改善を行い、自立支援事業者のガイドライン導入サポートと導入事業者のコミュニティづくりを行い持続可能な評価・改善のサイクルを作っていくことを行った。

##### ・第1弾調査：効果的援助要素拡充のための調査

###### 調査の目的

平成29年度に作成した自立相談支援事業評価実践ガイドについて効果的援助要素（事業成果を高めるコツ）を中心に内容をさらに充実させることでガイドの有効性を高め、普及展開の可能性を高める。

###### （調査対象）

- 全国の自立相談支援機関10箇所（順不同）
- サンプルング方法

前年度調査結果からフィデリティ尺度の総合得点の上位20事業所をリストアップし、就労実績や地域の偏りなどを加味して10箇所を対象に選定した。

- 昨年度事業（平成29年度自立相談支援事業評価ガイドライン作成・検証事業調査）にご回答頂いたデータを基に分析した診断結果（レーダーチャート）を共有
- 評価ガイドラインにおけるロジックモデルの妥当性の検証
- 効果的援助要素の拡充を目的としたインタビューを実施（添付の札幌市のインタビューガイドとレーダーチャートを参照）

##### ・第2弾調査：自立相談支援事業評価実践ガイド導入サポートと有効性検証

###### 調査の目的

平成29年度に作成した自立相談支援事業評価実践ガイドを10箇所程度の自立相談支援機関に導入するサポートを行い、ガイドに沿って事業改善と導入前後の事業評価を実施することで、ガイドの有効性の検証と、普及展開する上でのポイントや課題を整理する。

###### 方法

###### （調査期間）

- 平成30年12月3日 ～ 平成31年3月11日

###### （調査対象）

- 全国の自立相談支援機関7箇所（順不同）
- 自立相談支援事業評価実践ガイド導入サポートを希望する事業所を全国から公募し、問い合わせのあった8箇所と委員推薦の3箇所を合わせた全11箇所から、地理的状況、人口規模、支援機関の意向を総合的に考慮し7箇所に決定した（添付の事業所の公募（ご案内）を参照）。



### (調査方法)

評価ガイドの導入および実践にあたり、専門員が開始時と終了時に各支援機関を訪問し、事業改善方法についてアドバイスや振り返りを実施する。評価ガイドを導入する約2.5ヶ月間に起きた就労支援状況や相談者の変化を、初回訪問時と2回目訪問時に実施するアンケート結果を基に分析・検証する。

1. 初回訪問前に支援機関の就労支援状況およびフィデリティ尺度に関するアンケートを実施
2. 専門員による初回訪問
3. 専門員によるフィードバックに基づき支援機関がアクションプランシートを作成
4. 相談者の変化(最大5名)に関するアンケートを実施
5. 就労支援状況および相談者の変化に関するアンケートを実施
6. 専門員による2回目の訪問
7. 評価実践ガイドを使用した感想や改善点などフィードバックを支援機関から収集

### ・委員(敬称略)

池田 徹 一般社団法人 ユニバーサル志縁センター  
鴨崎貴康 特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会  
川上葉子 社会福祉法人 生活クラブ  
新藤健太 群馬医療福祉大学 社会福祉学部 助教  
田嶋康利 日本労働者協同組合連合会  
谷口仁史 特定非営利活動法人 NPO スチューデント・サポート・フェイス  
津富 宏 静岡県立大学  
西岡正次 大阪地域職業訓練センター A' ワーク創造館  
濱政宏司 豊中市市民協働部くらし支援課 主幹  
源由理子 明治大学 公共政策大学院 ガバナンス研究科 教授

### ・委員会

3回の委員会を開催。第1回目は2018年8月20日(月)13時~15時(@TKP新橋汐留ビジネスセンターミーティングルーム302)議事内容は、調査の調査対象事業所の洗い出や、昨年度作成した効果的援助要素充実のための議論等。第2回委員会は2019年2月6日(水)14時30分~16時(@TKP新橋汐留ビジネスセンターミーティングルーム302)議事内容は各委員会からの訪問調査と導入サポートの進捗報告、3月の報告会についての議論等。第3回委員会は3月27日(水)10時~12時(@TKP虎ノ門駅前カンファレンスセンターミーティングルーム1A)議事内容は調査の最終報告と報告会の進行とパネルディスカッションの内容について等。



・シンポジウム

2019年3月27日 シンポジウム「改正法を受けて、団体ごとの自立相談支援事業の改善・改革ビジョンを考える～事業評価ガイドを活用したアクションプラン検討のABC～」



3) ちばユニバーサル農業フェスタ 2018 の広報を実施

ア. ちばユニバーサル農業フェスタ 2018 への広報協力

本団体はちばユニバーサル農業フェスタに協賛を行い、2018年10月代々木公園にて開催イベント等で広報を実施した。

期間：2018年4月から12月



4. 東日本大震災復興活動支援

(NPO・市民団体等が取り組む東日本大震災復興活動を支援)

1) 東日本大震災復興支援活動についての意見交換の場の設定

市民キャビネット災害支援部会が中心に取り組む平成30年度「広域的地域間共助」推進協働型災害訓練等で復興支援活動の報告や防災訓練等を実施。

また東日本大震災支援全国ネットワークの世話団体も引き続き務める。

2) IT企業の新入社員を福島へ研修のコーディネート

IT企業の新入社員の有志による東北復興支援活動のコーディネートは本年度は未実施。

3) 公民館、仮設住宅等でのコミュニティ活動支援事業

ア. 東日本大震災復興支援

当団体が事務局を務めてきた東日本大震災復興 NPO 支援・全国プロジェクトが本年度で活動を終了いたしました。

2011年4月1日～2019年3月31日まで5,104,206円のカンパが集まりました。始まりの当初は仙台事務所活動費、2011年4月24日と2012年2月19日開催の支援フォーラム@立正大学石橋湛山記念講堂、スタッフ旅費交通費、資料等通信運搬費、ホームページ維持費、会議費、事務用品費、印刷製本費等に充てさせていただきました。

2016年度～2018年度に対しては下記東北団体の支援金として充てさせていただきました。

【2017年3月7日】

- ・まちの寄り合い所うめばたけ
- ・のんびりすみちゃんの家
- ・ささえ愛山元

【2017年12月20日】

- ・まちの寄り合い所うめばたけ
- ・のんびりすみちゃんの家
- ・ふれあいステーション・あい

【2018年1月22日】

- ・ささえ愛山元

【2019年3月19日】

- ・まちの寄り合い所うめばたけ
- ・のんびりすみちゃんの家
- ・ささえ愛山元

東日本大震災復興 NPO 支援・全国プロジェクト HP <http://fukkou-npo.jp/>

イ. 西日本豪雨災害支援

市民キャビネット災害支援部会が中心に支援活動を実施。

(活動記録)

2018年

7月9日 11:00 広島県熊野町の要請に基づき先遣隊(認定特定非営利活動法人日本レスキュー協会) 隊員4名、災害救助犬2頭体制で、熊野町川角に出動。行方不明者捜索活動にあたる。

7月11日認定特定非営利活動法人日本レスキュー協会安芸消防本部の指揮下にはいり、行方不明者捜索活動にあたる。

7月12日市民キャビネット災害支援部会支援隊: 隊員2名、4Tトラック1台の体制で、フードバンク埼玉から供与された支援物資を搭載して、特定非営利活動法人日本捜索救助犬協会に同行して、安芸消防本部に向けて出動。

7月12日13:00 特定非営利活動法人日本捜索救助犬協会隊員2名災害救助犬4頭体制で出動、安芸消防本部の指揮下にはいり、行方不明者捜索活動にあたる。

7月12日 市民キャビネット災害支援部会支援隊(市民航空災害支援センターメンバー): 隊員2名、4Tトラック1台の体制で、フードバンク埼玉から供与された支援物資を搭載して、特定非営利活動法人日本捜索救助犬協会に同行して、安芸消防本部に向けて出動。●2018/07/12 13:00 特定非営利活動法人日本捜索救助犬協会隊員3名災害救助犬3頭体制で出動、安芸消防本部の指揮下にはいり、行方不明者捜索活動にあたる。

7月13日 特定非営利活動法人日本捜索救助犬協会行方不明不明者捜索活動 終了後、支援隊+特定非営利活動法人日本捜索救助犬協会は倉敷市真備総合公園に向かい、倉敷市消防本部の指揮下に入り、捜索活動に従事。

7月14日 支援隊+特定非営利活動法人日本捜索救助犬協会は倉敷市真備総合公園に向かい、倉敷市消防本部の指揮下に入り、捜索活動に従事。

7月15日 支援隊+特定非営利活動法人日本捜索救助犬協会は再度広島市消防本部の指揮下に入り、捜索活動に従事。

7月16日 10:00 捜索反応箇所からご遺体発見。ご冥福を御祈りします。支援隊+特定非営利活動法人日本捜索救助犬協会は任務完了につき撤収。

### 3) 地域における震災復興・地域防災に関する調査活動

慶應義塾大学SFC研究所防災情報社会デザインコンソーシアムと連携し、震災復興、地域防災関連の活動についてセッションを実施。企画・運営等をユニバーサル志縁センター専務理事池本修悟が担当。

2018年11月23日(金・祝)@東京ミッドタウン(六本木)タワー4F カンファレンス room6

「情報連携で命を守る～市民の防災リテラシー向上に向けて～」

パネリスト

秋富慎司(防衛医科大学校 准教授)

小山晃(NITセキュアプラットフォーム研究所 セキュリティリスクマネジメントプロジェクト 危機管理運用グループ 研究主任)

熊丸由布治(元在日米陸軍統合消防 次長、株式会社日本防災デザイン代表取締役社長)

古川元規(公益社団法人 日本青年会議所 国土強靱化委員会 委員長)

村井純(慶應義塾大学環境情報学部 教授/政策・メディア研究科委員長)

コーディネーター

鈴木寛(慶應義塾大学総合政策学部 教授)

総括

武田圭史(慶應義塾大学環境情報学部 教授)



## 5. 子どもの貧困への対応(首都圏若者サポートネットワーク)

### 1) 首都圏若者サポートネットワークの推進

#### ①背景

2016年度実施した社会的養護下にある子の自立を考える研究会の報告を受け、18歳未満の中途退所者を含む「多様な旅立ちを支える」仕組みづくりを構築するため当団体内に首都圏若者サポートネットワーク運営委員会(顧問:村木厚子氏、委員長:宮本みち子氏)を発足。運営委員会での議論に基づき本法人で事業を実施。

#### ②事務局

一般社団法人ユニバーサル志縁センター(主管)

一般社団法人くらしサポート・ウィズ

日本労働者協同組合連合会

#### ③委員等

顧問

村木厚子 元厚生労働事務次官

委員長

宮本みち子 放送大学 名誉教授、千葉大学名誉教授

委員



新井秀親 NPO 法人 夢舞台 代表理事  
猪飼周平 一橋大学大学院社会学研究科、社会学部 教授  
池田徹 一般社団法人ユニバーサル志縁センター 代表理事、社会福祉法人 生活クラブ風の村 理事長  
伊藤由理子 生活クラブ事業連合生活協同組合連合会 常勤理事  
大原岳夫 社会福祉法人浦和福祉会 さいたま市児童養護施設カルテット 施設長  
岡本正 銀座パートナーズ法律事務所 弁護士  
沖倉紅児 生活協同組合 パルシステム生活協同組合連合会 地域支援本部 総合福祉事業推進室 室長  
兼間道子 NPO 法人 日本ケアシステム協会 会長  
鴨崎貴泰 NPO 法人 日本ファンドレイジング協会 事務局長  
菅原亜弥 認定 NPO 法人ブリッジフォースマイル 事務局長  
高橋亜美 社会福祉法人子供の家 アフターケア相談所 ゆずりは 所長  
恒松大輔 社会福祉法人子供の家 自立援助ホームあすなる荘  
利根川徳 一般社団法人協同総合研究所 専務理事、日本労働者協同組合連合会 理事  
木本ゆう NPO 法人日向ぼっこ 代表  
花井圭子 労働者福祉中央協議会 事務局長  
早川悟司 社会福祉法人子供の家 児童養護施設子供の家 施設長  
平野覚治 社会福祉法人ふきのとうの会 理事長、老人給食協会ふきのとう代表、一般社団法人全国食支援活動協力会専務理事  
藤井康弘 元厚生労働省障害保健福祉部長、NPO 法人 東京養育家庭の会 理事  
前川礼彦 自立援助ホーム湘南つばさの家ホーム長  
町野弘明 一般社団法人ソーシャルビジネス・ネットワーク 専務理事・事務局長  
山本和代 日本労働組合総連合会 副事務局長

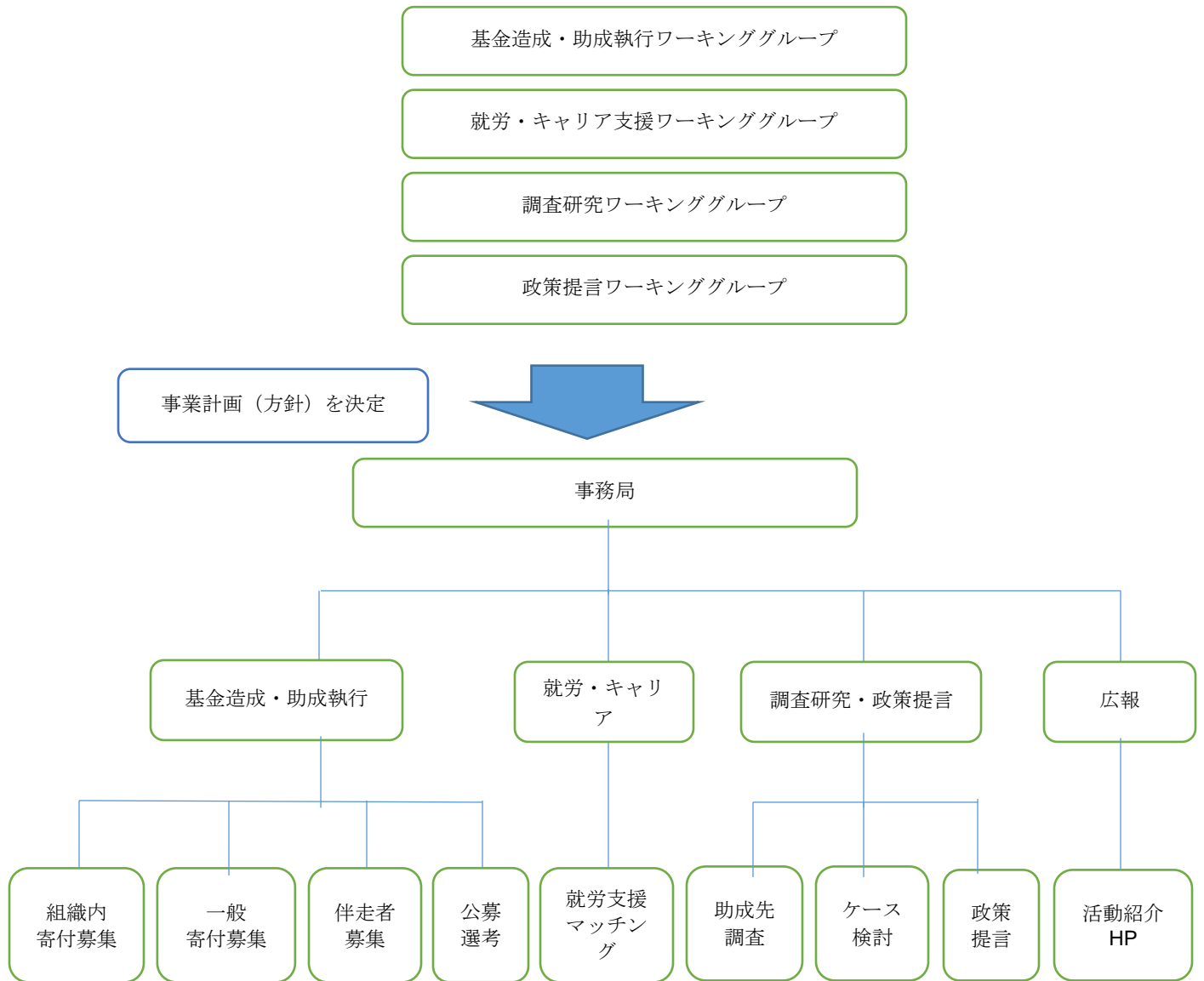
おうえん団長  
加藤登紀子

オブザーバー

風間与司治 東都生活協同組合 代表理事・専務理事  
杉浦賢次 日本労働組合総連合会東京都連合会 事務局長  
高橋陽子 公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長  
半澤彰浩 生活クラブ生活協同組合・神奈川 専務理事  
村上彰一 生活クラブ生活協同組合・東京 専務理事  
芳川龍郎 公益財団法人日本財団 公益事業部 国内事業開発チーム チームリーダー  
渡邊たかし 生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ 代表理事 専務理事

#### ④組織体制

首都圏若者サポートネットワークは運営委員会で事業の方針を決定。運営委員会での方針に基づき各事業は事務局が推進。



⑤事業内容

(目的)

社会的養護の下に暮らす(暮らした)子どもたち等の多様な自立を、伴走者と共に支援することで、自分の人生を切り開く一助とする。

⑥基金造成(募金の募集について)

(基金名)

若者おうえん基金

(基金の特徴)

- ・給付を原則としていること
- ・若者たちの自立に寄り添う伴走者を支援していること

(募集方法)

- ・組織内での寄付募集(Ex.生活協同組合などでの組合員カンパ)
- ・クラウドファンディング
- ・常設の募金箱、チャリティ自販機(伊藤園)等の設置
- ・イベント等での募金活動

(目標額)

2018年度の目標額は2000万円とする。ただし、活動を進めていくためには目標額以上の支援金が必要なため、2000万円を達成しても継続して寄付を呼びかける。募金額の85%を助成にあて、15%は助成ではなく事務経費とする。

(結果:2018年12月31日時点)

生活クラブ東京	5,786,000 円
生活クラブ神奈川	1,852,434 円
生活クラブ埼玉	2,173,000 円
CAMPFIRE	2,330,750 円
Syncable	264,200 円
中央労働金庫	177,125 円
三菱 UFJ 銀行	231,000 円
郵便振替口座	899,000 円
合計	13,713,509 円

- ・チャリティ自販機(伊藤園):山九株式会社5台、くらしサポートウィズ1台、個人1台
- ・ソフトバンクつながる募金:12月5日よりスタート。

携帯電話の利用料金の支払いと一緒に継続的な寄付ができるだけでなく、ソフトバンクスマホをご利用の方限定でTポイントでの寄付も可能。



現在の支援総額 **2,004,750円**

パトロン数 **105人**

募集終了まで残り **6日**

Campfire

「チャリティ自販機」設置 20年度までに100台

山九・伊藤園・首都圏若者サポートネットワーク

社会的養護から果立つ若者支援

2020年度支援計画

日本海事新聞

2019年2月18日朝刊6面

「若者おうえん基金」伊藤園・山九が賛同

「多くの企業に賛同を」

山九本社に支援自販機1号機

2019年2月18日朝刊3面

日刊産業新聞

2019年2月18日朝刊3面

### ⑦伴走者支援（助成金の給付）

（支援対象）

埼玉県、東京都、神奈川県内の主に社会的養護の下に暮らす（暮らした）おおむね30歳までの子ども・若者を支援する伴走者。伴走者とは既存の専門機関、児童養護施設、自立援助ホーム、里親家庭、アフターケア事業者、生活困窮者自立支援相談窓口、若者サポートステーションなどで寄り添いながら支援を行っている人・組織。また、助成決定後、運営委員による調査への協力を条件とする。

（助成内容）

- ・初年度は一般枠と先駆的实践枠を用意。
- ・助成を希望する者は所定の申請書、支援計画書を提出。
- ・一般枠（上限150万円）と先駆的实践枠（上限600万円）を用意。
- ・申請に際しては申請書、支援計画書を元に選考委員が必要性、緊急性、信頼性の評価基準を5点満点で評価し、その点数を踏まえて、選考委員の合議で決定。

（選考委員）

選考委員会のメンバーの属性は以下のとおり。

- ・大学教授 1名、弁護士 1名、団体役員 3名 計 5名

（2018年度選考委員名簿）

朝比奈ミカ氏	中核地域生活支援センターがじゅまる
伊藤由理子氏	生活クラブ連合会
岡本正氏	弁護士
小木曾宏氏	東京経営短期大学
日野原雄二氏	社会福祉法人鶴ヶ島市社会福祉協議会

（応募状況）

- ・一般枠：10件、先駆的实践枠：6件
- ・各応募申請額の総額：24127020円



(助成先決定)

＜若者おうえん基金 助成団体一覧＞※敬称略

No.	団体名	代表伴走者氏名 [所在地]	一般枠／先駆的実践枠	助成額 (万円)
1	自立援助ホーム 湘南つばさの家	前川 礼彦 [神奈川県]	一般枠	150
2	特定非営利活動法人 パノラマ	石井 正宏 [神奈川県]	先駆的実践枠	130
3	こもれびホーム	小谷野 泰 [東京都]	一般枠	36.292
4	こもれびホーム	小谷野 泰 [東京都]	先駆的実践枠	100.41
5	一般社団法人 Masterpiece	菊池 真梨香 [神奈川県]	一般枠	92
6	児童養護施設 若草寮	竹家 彩香 [東京都]	一般枠	50
7	特定非営利活動法人 夢舞台	新井 秀親 [埼玉県]	一般枠	150
8	特定非営利活動法人 一粒の麦 マラナ・タハウス	秋田 豊 [東京都]	一般枠	48
9	特定非営利活動法人 なんとかなる	岡本 昌宏 吉田 雄人 [神奈川県]	一般枠	150
10	アフターケア相談所 ゆずりは	高橋 亜美 [東京都]	一般枠	150

## ⑧伴走支援（就労・キャリア支援）

(2018年度事業概要)

・2018年度三菱財団研究助成に採択(150万円)され2018年10月～2019年9月の期間で三菱財団から150万円の助成を受けて、「社会的養護下やそれに準ずる困難な家庭で育った若者の就労自立支援スキーム構築のための調査研究事業」を実施決定。



三菱財団 助成金贈呈式

- ・就労体験を希望する当事者が現れた場合、1か月以内でニーズがマッチした就労体験の場を用意。
- ・その際、当事者向けにその期間働けない分1人につき3万円の支援金を用意し一定期間就労体験を提供。就労を希望する側と雇用する側の希望が合わない場合、他の就労体験先を探す。  
(事業推進：受入先の選定やマッチング業務)
- ・よいしごとステーション（ワーカーズコープ）/一般社団法人くらしサポート・ウィズ

(中心に関わってもらおう自立援助ホーム・ジョブトレーナー)

多摩エリア：マラナ・タハウス ホーム長 秋田氏

足立区：長谷場新宿寮 ジョブトレーナー 中澤氏

※ワーキングメンバーとしてあすなろ荘 恒松委員に相談。



(体験就労の主な受入先)

ワーカーズコープ（清掃・児童館など）、ワーカーズ・コレクティブ（店舗など）

生活クラブ生協・東京（配送センター）、パルシステム東京（配送センター・デイサービス）

株式会社パルライン（ドライ・冷蔵・セットセンター）

(保険加入や生活補助費振込等)

- ・公益社団法人ユニバーサル志縁センター

(パルシステム連合会 2017 年度地域づくり基金助成)

2018 年度小田川華子氏（首都大学東京客員教授）が『社会的養護リービングケア海外事例調査報告書—イギリスおよびオンタリオ州(カナダ)』を執筆。この結果を 2019 年度以降首都圏若者サポートネットワークでどのように活用するか検討。

## ⑨調査研究・政策提言

(支援ケースの調査目的)

助成先の伴走者に対してヒアリング等の調査を行う。調査の目的は、現状伴走者による寄り添い支援は体系化されていない。調査を通して伴走者支援のケースを増やすことを目指す。本年度未実施。

- ・どのような人が伴走支援を利用しているのか
- ・伴走者がどのような支援を行っているのか
- ・どれくらいの費用を伴走支援に必要とするのか

(政策提言)

伴走者へのヒアリング等の調査結果を分析することで政策提言が運営委員会で必要となった場合、政策提言ワーキングを開催し、政策を作成し提言を行なう。本年度未実施。

⑩広報

首都圏若者サポートネットワークの活動を広く周知するために広報活動を実施。

(ホームページ)

活動紹介や、基金募集、助成の申請募集、報告書の掲載。

(記者会見)

首都圏若者サポートネットワークについてメディアを通じて広く周知するために記者会見を実施。

(説明会・報告会・シンポジウム)

組織内カンパを実施する団体向けに説明会を行い、助成の結果について報告会を行います。また、寄付募集や伴走者支援を目的とした助成実施を広く知ってもらうためのシンポジウムを実施。

(メディア掲載)

読売新聞『若者支援の団体に助成金…基金設立、児童養護施設出身者ら支える』

<https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20181015-0YTET50029/>

朝日新聞『養護施設出た若者、支える おうえん基金設立 孤立すると困窮も、支援団体に助成』

<https://www.asahi.com/articles/DA3S13688370.html>

日経新聞『養護施設出身の若者ら 自立支援へ基金設立』

<https://www.nikkei.com/article/DGXMZ034806750Q8A830C1CC1000/> 他、多数掲載

月刊連合 2019年1月号新春対談 加藤登紀子会長×神津里季生氏(連合会長)

『未来に向けて、百万本のバラを—子ども・若者が希望を持てる社会へ—』



(ホームページ)

公式ホームページ：<https://wakamono-support.net/>

Facebook ページ：<https://www.facebook.com/wakamonoSN/>

(クラウドファンディング)

ソフトバンク

・SoftBank のスマホをご契約の方

<https://ent.mb.softbank.jp/apl/charity/sp/select.jsp?corp=489>

・ドコモ、au 等 上記以外の方

<https://ent.mb.softbank.jp/apl/charity/sp/creditSelect.jsp?corp=489>

・Tポイントで支払 ※SoftBank のスマホをご契約の方限定

<https://ent.mb.softbank.jp/apl/charity/sp/tpointSelect.jsp?corp=489>

CAMPFIRE：<https://camp-fire.jp/projects/view/95304>

Syncable：<https://syncable.biz/associate/wakamonoSN>



### ⑪スケジュール

2018年	6月	概要説明用サイトオープン		
	7月	第4回運営委員会 (7月9日)		
	8月	公式サイトオープン 記者会見 (8月30日)		
	9月	助成公募 (9月～11月末) 寄付募集キャンペーン月間 (9月～11月末)		
	10月	シンポジウム (10月4日)		
	11月	学習会 (11月5日)		
	12月	公募選考開始 第1回選考委員会 (書類選考) (12月12日)		
2019年	1月	第2回選考委員会 (面接) (1月13日) 第5回運営委員会 (1月30日)		
	2月	助成実施		
	3月	プレスリリース ヒアリング等調査検討開始 (調査研究ワーキンググループ)		



## 6. 資金状況報告

別紙

## 7. その他